

## 令和2年度（2回）二宮町社会教育委員会議 会議録

日 時：令和2年7月9日（木）13時30分より

場 所：二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1

出席者：（社会教育委員） 蓮實茂夫委員長、伊達良雄副委員長、一色由利子委員、  
久保田秀実委員、関口金由紀委員、橋本由恵委員  
古正栄司委員、三宅栄子委員  
（事務局） 森教育長、黒石教育部長、小笠原生涯学習課長、  
小嶋生涯学習・スポーツ班長、小泉主事

傍聴者 0名

資料

- ・会議次第
- ・名簿
- ・資料1 二宮町新型コロナウイルス感染症対策公共施設利用ガイドライン
- ・資料2 ラディアン感染症対策チェックリスト  
テニスコート感染症対策チェックリスト  
町民運動場感染症対策チェックリスト  
山西プール感染症対策チェックリスト  
町立体育館感染症対策チェックリスト  
武道館感染症対策チェックリスト  
利用者名簿
- ・資料3 社会教育委員の研究の進め方について  
【令和元年度】町民向けイベント一覧
- ・資料4 生涯学習課事業報告
- ・資料5 令和2年度 二宮町社会教育委員会議開催予定

### 1 開 会

### 2 教育長あいさつ

### 3 委員長あいさつ

### 4 議題

#### （1）生涯学習課所管施設の再開について

資料1及び2を事務局より説明

（委 員）防災コミュニティーセンター等の地域の施設を利用した際に、トイレの清掃をどうするかという話があった。トイレの清掃について、今回のチェックリ

ストの中では、「トイレは蓋を閉めて流す」という一文しかないが、トイレの清掃方法等を示さなくていいのか。

(事務局) 防災コミュニティーセンターは、地域集会施設であり、当施設と使用用途が異なる為、担当課へ確認しないと分かりませんが、ラディアンの場合は、清掃業者に清掃業務を委託している為、利用者の方には飛沫感染防止として、トイレの蓋を閉めて流してもらうようお願いする形です。

(委員) ガイドラインは、今後の感染状況により変更になるとのことですが、現在のチェックリストを見ると、利用人数がかなり制限されています。現在の状態では、イベントの企画・開催も難しい。今後の方針について教えていただきたい。

(事務局) 利用人数について、感染状況を見ながら段階的な緩和も考えています。また、他市町村の様子も確認しながら判断していきます。新型コロナウイルス感染症対策については、町全体の方針となる為、町の対策本部が決定していくこととなります。

(委員長) 利用人数の算定基準はありますか。

(事務局) 業種別ガイドラインを参考に算定しています。

(委員) 利用人数が制限されているが、使用料は据え置きであることから、金額の見直し等の対策を検討していただきたい。

(事務局) 使用料は、人数ではなく部屋に対してお支払いいただいています。利用人数が減ったことによる使用料の減額というのは現状想定していない。今後、新型コロナウイルス感染症により、このような状況が続くようであれば、検討していく必要があると考えています。

(委員) 利用者が制限されることで、各部屋の価値が下がることにも繋がる為、ぜひ検討していただきたい。

(委員) 今まで利用していた部屋が、人数制限により利用できず、今までよりも大きい部屋を利用しなければならない状況にある。今までと使用用途や人数は変わらないのに、部屋を大きくしたことにより使用料が上がってしまうことから、今後金額の見直し等を検討していただきたい。

(教育長) 使用料の値下げや補助、減免等、色々方法はあると思いますが、町として今後の改善策等を考えていきたいと思っています。

## (2) 社会教育委員研究の進め方について

資料3を事務局より説明

(事務局) 前回の会議のなかで、社会教育委員として活動するにあたり、研究テーマを設けることについて了承いただきました。また、その研究テーマ(案)については、委員長、副委員長、事務局で事前に相談のうえ、皆様にお示しするようお伝えさせていただきましたが、事前の話し合いのなかで、研究テーマ(案)を設定する前に、二宮町の社会教育の全体像を把握することが必要だ

という話になりました。一言で社会教育といっても、町の事業だけでなく、各団体で行うことも含まれています。まずは、町全体で行われている社会教育について、各社会教育委員の知りうる情報を持ち寄り、町の課題等について探っていき、次回以降持ち寄った情報を年代別・ジャンル別に整理していくなかで、課題の抽出・研究テーマの選定に移っていければと考えています。最終的には、活動内容を報告書にまとめ、教育委員会へ提出していただくような形を想定しています。

(委員 長) 前回の会議のなかで、各社会教育委員にどんな研究テーマがよいかお伺いしました。しかし、研究テーマを選定する前に、まず、各社会教育委員が二宮町の社会教育を理解する必要があると考えました。また、研究テーマの調査・研究にあたり、場合によっては現地に赴き調査を行いながら、進めていければと考えています。来年度末までに、研究テーマの選定から調査・研究、まとめが終わるように進めていければと考えていますが、いかがでしょうか。

(各 委員) 意見なし

(委員 長) 今後の活動の為に、二宮町の生涯学習の歩みを少しお話しさせていただきます。昭和 63 年 5 月 二宮町社会教育委員会会議へ諮問があり、平成 2 年 3 月に二宮町教育委員会へ答申を行い、平成 5 年 3 月に「二宮町生涯学習基本構想」を策定しました。平成 6 年には、「二宮町生涯学習推進協議会」が設置され、平成 7～9 年の間には、「生涯学習推進のための区長説明会」「生涯学習推進大会」「小学校区別の生涯学習地域フォーラム」も開催されました。「二宮町生涯学習基本構想」では、いつでもどこでも学習が出来て、その成果を活かすことが出来る社会を目指していくと書かれているが、時代が変わる中で、学んだことを地域等に活かすことが出来なくなり、本来の生涯学習の目的が達成出来ていないように感じている。

次回の研究テーマの選定の前に、各社会教育委員のご意見等を少しお話しただければ。また、次回は資料を持ち寄ったうえで、話し合いが出来ればと考えています。

(委員 長) まずは、事務局から町の課題等についてお話しただければと思います。

(事務局) 継走大会や体育祭に関する地域の選手確保、体育館や温水プールといった施設の維持管理、恵友会やシニアリーダーズクラブといった青少年育成グループの人数確保等が課題として挙げられる。今後の在り方について、検討していく必要があると考えています。

(副委員長) 当面の目標として、自主的な研究テーマを決めることが目的になる。研究テーマは、前回の会議を踏まえると、小中学生と地域とどのように結びつけていくかに収束するのでは。

資料を一読すると、町で行われている講座は、個人が趣味的に学ぶものが多いように感じた。学んだ知識を地域の方やサークル仲間に教えて広げていくような地域との成長という面が欠けているように感じた。また、小学生向けの講座についても、小学生と大人、小学生と地域がどのように一体化してい

くのかという観点が欠けているように感じた。近年、生活が多様化しており、地域活動へ参加してもらえ方も少ないという状況も踏まえて話し合っていければ。

(教 育 長) 絆・輪といった関係性の構築が重要。その関係性をつくる為に施設や講座等の仕組みがある。今、人と人との繋がりが希薄になっているが、いざという時は、助け合わなければ生きていけない時代になっている。自分だけが学ぶのではなく、人と接することで高め合ったり、一緒に学んだりすることが重要なのでは。町が活性化していくためにはという視点でも研究テーマを考えていただけたら。

(委 員) 子どもたちが、自主的に遊んだり学んだりする場があるといいなと思っています。放課後子ども教室のように、子どもがいる場所へ出向いて、地域の人と連携して社会教育を行うことが有効な手段と思っています。また、新型コロナウイルス感染症による自粛期間を経て、今まで活動してきた人達の価値観も変わってきています。これから社会教育活動をする人達の心情や思いも考慮しながら活動していかねばと感じています。生活の多様化により、子どもも大人も忙しくて、なかなか集まらない状況。

(副委員長) 放課後子ども教室は、自ら子どもが参加するような意識は見られないように感じる。主に、親が募集チラシを見て「行ってきなさい」と言ったから参加するような子が多い。

(委 員) 一色小では、地域再生協議会及びコミュニティ・スクールがあることが大きなメリットと感じています。今までになかった地域の方の視点を取り入れ、地域住民の方に協力頂いていることから、楽しい場所になりつつある。先日、地域の方からカブトムシの蛹を 100 匹いただいた際には、先生達が目を輝かせながら喜んでいました。先生達が子ども達に「こんなに凄いものを貰った」と話しかけると、子ども達も同じように喜んでくれた。今では、空き教室にくぬぎの木を転がして野放し状態にし、様子を観察しています。カブトムシの件は一つの例に過ぎませんが、一色小は、地域再生協議会やコミュニティ・スクールがうまく学校を支えてくれています。学校に持ち込まれたアイデアを「出来ません」の一言で済ますのではなく、「どうしたら実現出来るか」と考えるようにしています。この歯車が噛み合っていけば、どんどん良い地域になると感じています。

(委 員) 町の講座等は、対象が限られている。保護者の方や若い世代の方は、何でもネットで情報を手に入れることが出来る為、何かを体験させたり習わせたりするのに、町の講座等をあまり使用していない。自分自身も町の講座に対して必要性を感じていなかった。町の講座の参加者は、高齢者等の町の中で済ませたい人達がほとんど。現場のリアルな声がないと、ニーズがないものを進めていても参加率も悪く意味が無い。そのイベント自体を知らない人もいるため、情報伝達の手段を変えていくというのも重要なことだと感じています。

- (委員) 以前、地域と学校を結びつける教育として、地域清掃があった。その後、PTAが中心となってふれあいリサイクルをやっていたが、ここ2、3年でPTA役員が大変ということでなくなってしまった。地域とのつながりが減ってしまった。地域との結びつきを作るには、先生や保護者の力が不可欠。先生方も大変だとは思いますが、地域と連携の場を設けてもらえたらと感じています。
- (委員) 町の現状について、分かっていない状態。平成7、8年に指導者養成講座にて地域のリーダーを育成・指導していた頃は、その方達に色々手伝っていた印象。現在の町の状況について、これから勉強していければと思っています。
- (委員) 小さい頃からの地域との関わりが重要だと感じているが、近年登下校中に色々事件が起きていることから、知らない人には挨拶してはいけないと子ども達は教えられている。小さい頃から地域との関わりを持つことを培っていくことが必要なので、幼児から小学生、妊産婦、高齢者の全員と関わりを持つことが出来たらいいなと思っています。
- (委員長) 次回に向けた情報収集について、出来る範囲でお願い出来ればと思います。

### (3) その他

資料4及び5を事務局より説明

- (事務局) 次回協議会を前倒しして、8～9月で開催させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。
- (各委員) 問題ありません。
- (事務局) では、メールにて日程調整を行います。また、放課後子ども教室について、学校再開に伴い、打ち合わせ等の調整をいたします。
- (事務局) 補足として、図書館の利用者数についてお伝えします。現在、図書館は、一部利用制限を設けて開館しています。1日あたりの利用者数で、昨年度6月の土日では700人程度、今年度の土日では270人程度の方が来館しています。また、7月4日と5日には、平均377人の方が来館されました。

## 5 閉会 15:15